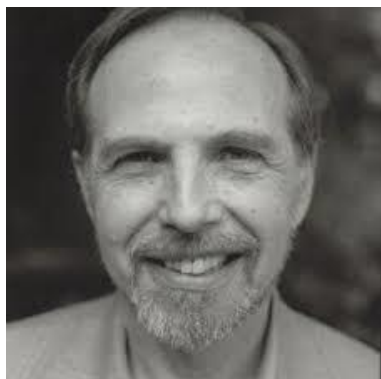


アーサー・クラインマン医学博士（ハーバード大学医学部）

「病いの経験、患者の語り、患者－医師関係の未来

：21世紀の医療人文学を通じて臨床実践を再構築する」



2025年9月18日（木）18時から20時

神戸大学医学部外来診療棟6階大講義室

参加費 無料

逐次通訳あり

講演要旨

医療人文学は、患者の「家族」の病いの経験と彼らによって生きられた困難な経験が病いの語りを通してどのように表現されるかに焦点を当てる、臨床実践のための新たな機会を世界中で創出しています。患者と家族の物語は、個人的でありかつ文化的な意味を生み出します。医療者も臨床実践における専門的・個人的な語りを通して同様のことを行っています。本講演では、こうした病いの物語が、ケアにおいて有用であるだけでなく、患者とその家族、患者と医師の関係、さらに医師の職業生活においても、人間的な側面に大きく貢献する理由を説明します。このアプローチは、非人間的な医療実践を医療者に強いる官僚主義的医療システムによる破壊的な束縛に抵抗します。臨床的ケアに生き生きとした活気を取り戻し、医療者のバーンアウト（燃え尽き）を防ぎ、医療システムをより人間的なものに改革する未来への道を切り開くために、語りと経験と記憶とをこのアプローチは重視するのです。

講師紹介

アーサー・クラインマンは1941年、ニューヨーク市ブルックリンで生まれました。複雑な家庭で育ち、喧嘩の絶えない少年時代を送りましたがロングアイランド郊外に転校してからは持ち前の活力を勉学に注ぐようになりました。ある開業医と出会ったことをきっかけに医師になることをころざしました。

1982年ハーバード大学医学部教授に就任。中国人社会を主なフィールドにし、台湾の民俗治療者タンキーや中国医学の研究をはじめ、医療人類学と精神医学への貢献で多数の賞・名誉に輝き、著書に『臨床人類学－文化のなかの病者と治療者』（1980）、『精神医学を再考する－疾患カテゴリーから個人的経験へ』（1991）、『病いの語り－慢性の病いをめぐる臨床人類学』（1988）、『他者の苦しみへの責任』（1997）、『ケアをすることの意味』（共著2015）などがあります。先生の「解釈モデル」概念は、わが国医学部の必修単位である医療面接の根本概念に取り入れられています。

しかし先生は大きな苦難に襲われました。先生の研究上のパートナーでもあった最愛の奥様が若年性アルツハイマー型認知症を発症されたのです。先生ご自身による奥様へのケアが始まりました。その10年間の過酷な体験が『ケアのたましい夫として、医師としての人間性の涵養』（2019）に切々と記されています。

